

学 習 た よ り No.1

平成26年6月号

栃木東中学校学習指導部

学習に関する成果や情報を「学習たより」としてお届けしたいと思います。学習の参考にしてください。

1 本年度の学校課題

1年間を通して、1つの研究課題をもとに、全職員が一丸となって教育研究を進め、成果や改善点を認識していくものが「学校課題」です。

(1)研究課題

「学び合う力を高める言語活動の工夫」

(2)実践内容(今までの学校課題の成果を生かして)

- ① 基本的な学習態度を育成する。
- ② 基礎的・基本的な内容の習得を図る。
- ③ 学び合う能力・態度の育成を目指して、“言語活動の充実”を図る【3あい運動】
- ④ 「総合的な学習の時間」の充実を図る。
- ⑤ 評価の工夫をする。

(3)私たちは、次のような授業を心がけます

- ① 「ねらい」を明確にした授業
- ② 生徒同士が説明したり、発表したりして、課題を解決していく授業
- ③ 生徒個人個人に応じた効果的な学習活動を重視した授業
- ④ 外部講師等を導入したり、体験的な学習活動を取り入れていく授業
- ⑤ グループや集団で、資料を活用したり、調べたりしていく授業
- ⑥ 一斉授業の中で生徒同士の励まし合いや助け合いを重視していく授業

以上のような授業以外でも、生徒の学び合いの力を高めていく様々な工夫をしています。

2 家庭学習の充実にむけて

子どもたちの学力の向上を図るためには、学校での授業が重要な役割を担っていますが、子どもたちの「自ら学ぶ姿勢」を育てることが必要です。そのためには、学校と家庭が連携して、子どもの学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図りましょう。

家庭学習をささえる4つのポイント

- ① 生活のリズムを整えましょう。
- ② 学ぶ雰囲気をつくりましょう。
- ③ お子さんと対話をしましょう。
- ④ 努力を認め、はげしましょう。



3 県民の日（誇りを持とう！）県民発祥の地・栃木市について



（１） ６月１５日が「県民の日」と制定されました。

★ どうしてでしょうか？

- ① 明治６年（１８７３年）栃木県と宇都宮県が合併し、おおむね現在と同じ県域の栃木県が成立した日。（戊辰戦争一明治維新一廃藩置県：２年で学習）
- ② 明治６年（１８７３年）は今から１３６年前
- ③ 明治４年（１８７１年）旧栃木県は、日光や足利、群馬県を含んでいました。
- ④ 明治４年（１８７１年）旧宇都宮県は大田原や烏山を含んでいました。

（２） 明治６年６月１５日に今日の栃木県が成立しました。（県名は明治４年１１月１４日に使用開始）

- ① 県庁は最初は菌部村、そして栃木町（現在の栃木市）に置かれました。（以前の栃木市教育委員会があった建物です。その建物の正面玄関の東隣（県庁堀の端）に石碑があります。）
- ② 明治１４年（１８８１年）に宇都宮町に移されました。

（３） 県木はトチノキ

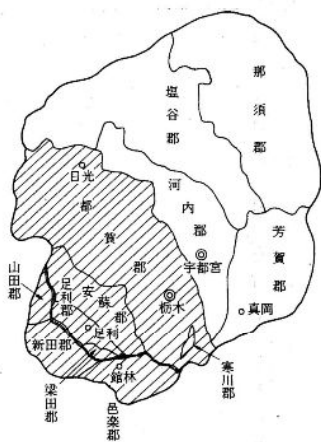
- ① セイヨウトチノキ、ベニバナトチノキ、他仲間のトチノキを含めて、フランスでは「マロニエ」と呼んでいます。
- ② 「マロニエ特使」——栃木県のイメージアップとして高名な栃木県出身者に依頼。（作家の立松和平さん、ジャズ演奏家のナベサダこと渡辺貞夫さん）
- ③ 県鳥は「オオルリ」、県花は「やしをつつじ」、県獣は「カモシカ」

（４） 栃木の由来

栃木の由来は、一説によると神明宮の屋根ぐしの千木（ちぎ）からでたと言われています。昔、神明宮の社殿が、栃木城内村（現栃木市城内町）にあった頃、屋根に２本の千木と８本の鯉木（かつおぎ）がついており、これを遠望した時に千木が１０本あるように見えたところから人々は、神社のあたりを「十千木（とおちぎ）」と呼ぶようになったと言われています。

明治の初めには、県名に「栃木」や「椋木」が使われていましたが、明治１２年から、現在の「栃木」が使われるようになりました。

明治初期の栃木県



現在、山田・邑楽・新田群は群馬県

旧栃木県管轄区域 旧宇都宮県管轄区域

現在の栃木県

